

働いてよし&暮らしてよし むらやまの企業

株式会社トプコン山形

山形市にある株式会社トプコン山形の石川颯馬さん取材しました！

石川さんは山形県高畠町出身で、2019年に入社しました。

現在はアイケア製造部 EC 製造技術課で勤務しています。

(1) 仕事内容編



——現在の仕事内容を教えてください。

私は EC 製造技術課に所属しています。EC というのは、アイケア (Eye Care) の略称で、主に眼科用医療機器・検査機器を担当するエンジニア集団です。私たちは、親会社の株式会社トプコンで設計された新製品を量産するための試作や製造ライン構築、治工具の設計開発、既存製品の不具合改善や製造効率アップのための技術的改善を主に行っております。

——石川さんは「レフラクトメータ」を担当されているそうですが、どのような製品でしょうか。

皆さんが眼科に行くと、最初にどれくらいの視力があるのか検査されると思います。この時、「レフラクトメータ」を使用します。

眼科に行くと「機械の中を覗いてください」という指示を受けるかと思いますが、その中を覗くと、トプコンの製品では草原の中の赤い屋根の家を見ることができます。ここを覗いたときにレフラクトメータが自動で、近視や遠視、乱視の傾向を検査してくれます。

——従来の目を片方隠して視力を図るやり方とはどのような違いがあるのですか？

役割的には同じようなものですが、製品が自動的に一瞬で測定を行うので、患者さんがアクションをおこすことなく測定できるという点で大幅に簡略化されていると言えます。

——レフラクトメータは入社されてからずっと担当しているのですか？

最初は眼底カメラという眼の網膜部分を撮影する特殊なカメラを担当していて、その後にレフラクトメータ担当になりました。眼底カメラは主担当が別にいたので、私は副担当としてやっていました。



——石川さんがレフラクトメータを担当することになったきっかけはあるのですか？

EC 製造技術課では、トプコングループ国内外の拠点にある修理部門に修理用の調整工具を提供していますが、この調整工具の製造を1~2年ぐらい担当していました。レフラクトメータの工具も作っていたので、もしかしたらその繋がりでレフラクトメータの担当に決まったのかもしれませんが。ですので、まったく知らない製品というわけではありませんでした。



——そうなんです。製品が変わっても担当の部署というのは変わらないものなのでしょうか？

大きくは変わることはないと思います。基本的に担当者は、その機種への副担当を経験していた者や、何らかの形でその機種に関わっている者の中から選ばれます。製品によって特性が全然違って来るからです。

もちろん、面談等で他の製品をやってみたいかという希望を聞かれることがあるので、その時にやってみたいことがあるという意思を伝えれば反映されることもあります。ただ、先ほども話したように製品によってかなり特性が変わるので、また一から勉強し直す必要があります。

——製品について勉強する機会は設けられているのですか？

副担当をしてみたり、設計書を確認しながら製品の理解を深めていく形で製品を学びます。他にも、製造ラインに一度入って、実際に組立を行って学んでいくというようなやり方があります。

新卒での入社後の新人研修も、他社に比べて長めの研修です。私は主に東京のトプコンで2か月半ほど研修を受けてきましたが、この時は製品の基礎だけでなく、光の特性やレンズやプリズムの性質を学ぶ「光学」を叩きこまれます。これがなかなか大変で、朝から晩までみっちり勉強します。様々な大学の先生方も教えに来るので、大学でする勉強を1週間ほどに詰め込むような感覚で本当に大変でした。

——研修でこんなに詰め込んで学ぶのは驚きです。

「光学」は眼科用医療機器の心臓部にかかわるところですからね。もちろんすべてを理解できなくても大丈夫ですが、本当の基礎のところ、光はこうやって動くんだとか、こういった特性があるんだとか、大まかなところを理解できていれば、当社で製品を組み立てる際には十分だと思います。

その他にも光について学びたいことがあれば、トプコンに専門の部門があるので、そちらに相談してみるのも一つの手です。光学というのは独学で学ぶのはかなり難しい分野になるので、光を専門に勉強してきた先輩社員に話を聞いたり教えてもらったりということができる環境です。



——入社してから成長したと思うところについて教えてください。

私自身あまり気は強い方ではないので、結構緊張することが多くて、なんなら今も緊張しているのですが（笑）、大学の研究発表ぐらいでしか人前で喋るという経験がありませんでした。

しかし、会社に入ってからやはり会議や打ち合わせをする機会が多く、担当製品のトラブル発生時や設計変更があった時は、製品担当者が会議を主催する必要があるので、そういう時に私自らが率先して話をする場面は多くなりました。技術的な面よりも、このようなコミュニケーションの面が成長したというのは、入社してから一番変わったと感じるところです。新人研修でコミュニケーションに関する部分も徹底的に学んだ経験も大きいかもしれません。

(2) 職場編



——入社を決めたきっかけは何ですか？

私は山形県高島町の出身で、進学のために宮城県に行ったのですが、就職するなら山形というのは最初に考えていました。就職活動を行う中でトプコン山形を見つけ、最終的に採用をいただきました。決め手としては、メーカーであること、それに加えて数多くの海外拠点もあることから非常に安定した会社であると感じたことです。

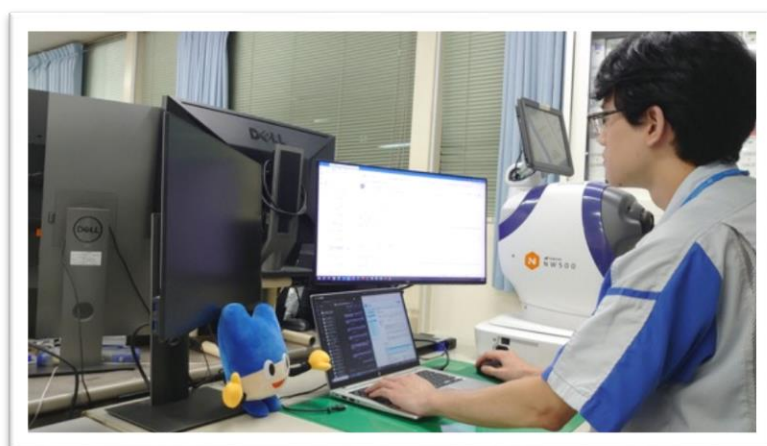
—————石川さんは東北職業能力開発大学校のご出身ですが、学校で学んだことと現在のお仕事の関係について教えてください。

直接業務に影響していると言えるものはあまりないのですが、例えば、設計部門の方と話す際には専門用語が数多く出てきます。電子部品一つとっても、役割によって大きく名称が異なるため、部品の名称を把握する際に、学校で学んだことは役に立っているのではないかと思います。

それに、私は学校ではメカを扱う学科で勉強していたこともあり、金属加工や組立工程設計の基礎知識はかなり学べたので、このことはとても役に立っていると思います。

————入社してよかったと思ったことを教えてください。

今の部署で働いていると、先輩方から積極的に関わってくださるので、先輩方がとてもフレンドリーです。業務内容も、フローチャートやマニュアルでまとめられているので、とても快適な作業環境を提供していただいていることもあり、このような点でかなり助けられていると思います。



——各種休暇の取りやすさについて教えてください。

有給休暇については部門によって、取りやすい取りにくいはあるかもしれませんが。製造部門の組立工程などはラインで製造するので、ラインを担当する方が急にお休みになってしまうとライン自体が動かなくなってしまう場合もありますので。もちろん応援などを行って対応しますが、製造部門の場合は計画的に有給を取る必要が出てきます。

私の製造技術部門も急にお休みになると業務がストップしてしまいますので、計画的に有給を消化します。もちろんどうしてももの時もあるかと思しますので、そういった時は上長に連絡すればお休みはとれるような環境だと思います。

——トプコン山形の特徴的な福利厚生があれば教えてください。

(総務の松尾さん) 私は他の会社を経験してトプコン山形に入社したのですが、休みが多いと思います。完全に土日祝日はお休みになりますし、製造業では珍しく日勤のみになりますので、夜間や土日に急に呼び出されるということはありません。こういったところが他社と比べてのメリットだと思います。

それに、昼食代が安いです(笑)。お昼は弁当なのですが会社が一部補填してくれるので、一ヶ月間毎日お弁当を注文したとしても昼食代は月4千円ぐらいで済みます。



——海外出張は頻繁に行われているのでしょうか？

（総務の松尾さん）コロナが明けてからはだいぶ活性化してきました。製造技術課でも長期で海外に出張している者もいます。他にもちょっとした出張で、グループ会社の製造工場があるところに行きます。主にアジアやヨーロッパ圏ですね。

（石川さん）自分はまだ国内の出張のみで、海外には行ったことがないです。

——語学研修は開催されるのでしょうか？

（総務の松尾さん）出張が長期にわたる場合は開催されます。短期の場合は、現地の日本人や通訳さんと同行するので、言葉を話せなくても心配する必要はありません。



(3) ある日の過ごし方編

●8:10 【ラジオ体操】

ラジオ体操をしてから、業務を開始します。

●8:15 【午前の業務開始】

外部企業に依頼する注文仕様書の作成を行います。その注文仕様書の内容について、午後から打ち合わせを行うこともあります。

10時に休憩が10分あります。



●11:45 【お昼休憩】

お昼休憩は二交代制です。

●12:25 【午後の業務開始】

基本的には午前と同じ業務をします。

製造ラインの管理もする必要があります。例えば、製造ラインの工具の調子が悪かったりするとラインが止まってしまう一大事になります。製造ラインを確認して怪しいところを修理したり、トラブルを未然に防ぐために予備の工具を作ったりしています。

15時に休憩が10分あります。



●17:05 【終業時間】

残業をする場合は、17:20から開始します。私は平均で2時間ほど残業することが多いです。

●19:00 【退勤】

退勤後は、外食に行ったり何かご飯を買ったりしてから帰宅します。

(4) むらやまでの暮らし編



——— どうして山形で働きたかったのか、教えてください。

出身地から会社までの距離が近ければ、万が一何かあればすぐに行けるので、山形がいなとは考えていました。

それに、私の好物がラーメンであることもあり、山形といえばラーメンであり、平日や休日はラーメンを食べにいったりするので、そういった面でも山形かなとは思いました。

——— おすすめのラーメン屋さんがあったら教えていただけますか？

よく行くのは「麺屋 春馬」というところです。山形市に2店舗、天童に1店舗ありまして、飽きないように3店舗ぐるぐる回って食べています（笑）。あとは、天童市の方に「居間人」というお店がありまして、そこもよく食べに行きます。

——— 山形のこういうところがやっぱりいいね、というようなアピールポイントがあれば教えてください。

最近ですが、天童市はお店が結構増えてきているような印象があり、これからもっと住

働いてよし、暮らしてよし むらやまの企業

株式会社トブコン山形

みやすい街になっていくのではないかと思います。ほどよく都会ですが、都会ほどごみごみしていないので、そういった面でも住みやすい街なのではないかとも思います。



(5) まとめ編

———今後の目標を教えてください。

新製品の立ち上げに参加してみたいという気持ちがあります。一から製品を作るということですね。今までは既存の製品の担当を行ってきていますので、一から作り上げることはかなり大変だとは理解していますが、挑戦してみたいと思います。

———何かに挑戦することを応援する風土があるんですね。

そうですね。何かしてみたいという欲求に対して、真摯に検討してもらえることは多いです。検討した上でダメだったということもあるのですが、まずは話してみて、自分の意思を示せば結構応えていただけると思います。

———いい環境なんですね。ずばり、自社のアピールポイントを教えてください。

トプコン山形を含めたトプコングループは世界トップシェアの製品も複数持っていますので、そういう意味で高い技術力を持った安定した会社です。安定した技術基盤とマーケットという現状に満足することなく、グループ全体でさらに成長を目指しているところが当社の強みと思います。

——就活生に向けてのメッセージをいただければと思います。

専門的な技術を勉強することももちろん大事ですが、コミュニケーション能力を伸ばすことも大事にすべきだと思います。

私が所属する製造技術部門は、他の部門との橋渡しの役割があります。トプコンから送られてきた設計変更の仕様書などをトプコン山形の関連部門に伝達したり、部品の調達に関してパートナー企業から変更を伝えられた場合も製造技術部門が関連部門と調整を行ったりするので、他の部門と打ち合わせを行うことがとにかく多いです。

この時に、決して一方的な要求にならないように、自分の要求の意図を相手方にしっかり伝えることがとても大事です。というのも、表面の要求だけ伝えて裏側の意図が伝わっていないと結局は意に反するものが出来上がってしまい、やり直しとなるリスクがあるからです。こういう要求をするのはこういう意図があるからだ、ということを相手に正しく理解してもらうためには、意識して伝え方を工夫する必要があるので、コミュニケーション能力を伸ばしておくことが大事だと私は考えます。

——ありがとうございました！

オリンピックにも使われるほどの精度を誇る測量機や、世界中の眼科医が求める眼科用医療機器の生産で世界のトップを走る株式会社トプコンの基幹工場が、トプコン山形です！まさに日本の未来とも言える若手社員さんの活躍をお聞きできたこと、世界トップの製品の生産現場を見学できたことは非常に貴重な体験となりました。お忙しい中、ありがとうございました！



【インタビュアー：山形大学人文社会科学部
安部 諒大、 工学部 井上 桃希】

株式会社トプコン山形

★世界トップシェアの眼科用医療機器・測量機器を生産！

株式会社トプコン（東証プライム上場）の基幹工場として、最先端の眼科用医療機器・測量機器を生産し、世界中の豊かな社会づくりに貢献しています。

★（親会社トプコン）経済産業省・東京証券取引所選定「DX 銘柄 2024」にて、「DX プラチナ企業 2024-2026」受賞

- ・所在地 山形県山形市大字漆山字石田 547 番地
- ・設立 昭和 21 年 12 月
- ・従業員数 357 名（男性 252 名、女性 105 名）
- ・事業内容 眼科用医療機器・測量機器等の光学系精密機器の製造
- ・URL <https://www.topcon-yamagata.co.jp/>

